

地元大学生のビジネス体験スペースと
地域のコミュニティスペースとして空き店舗を活用

小山商工会議所

機関名	小山商工会議所（おやまTMO）		
所在地	栃木県小山市城東1-6-36		
電話番号	0285-22-0253		
地域概要	(1)管内人口 84千人	(2)管内商店街数 11商店街	
事業の対象となる 商店街の概要	(1)商店街数 7商店街	(2)会員数 200商店	
	(3)空店舗率 13.2%	(4)大型店空き店舗数 0店	
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成15年度 空き店舗対策事業

思川カフェ（OMOIGAWA CAFE）事業

- ・白鷗大学生の喫茶店運営によるビジネス体験の場としての活用。
- ・学生サークル活動・商店街活動・市民活動の場の提供と中心市街地活性化の情報提供発信の場（コミュニティスペース）としての活用。

総事業費

6,000千円

【事業実施内容】

1. 背景

平成12年度に策定された小山市中心市街地活性化基本計画及び平成13年度に策定した小山市商業タウンマネジメント計画には、特に駅西地区における空き店舗が目立ち、その対策や有効利用の必要性が説かれている。

本事業は、空き店舗を地元大学である白鷗大学の学生に活用してもらい、若者の斬新な発想やアイデアによる有効利用を図るとともに、商店街及び地域の活性化と集客力の向上を図ることを目的に実施した。



「思川カフェ」位置図

2. 事業内容

小山商工会議所（おやまTMO）が、駅西地区で特に空き店舗が目立つ御殿町商店会における1店舗（空き店舗）を借り上げ、白鷗大学生による喫茶店運営（ビジネス体験スペース）及び学生・商店街・市民とのコミュニティスペースとして活用した。

(1) 運営体制

管理体制として、小山商工会議所中心市街地活性化委員会の傘下に、中心市街地活性化委員会委員、及び白鷗大学、商店会、市、専門委員で構成する空き店舗活用委員会を設置した。

店舗運営は白鷗大学の学生有志が行い、学生有志は仮想の運営会社（バーチャル・カンパニー）を設定して経営会議を構成するとともに、各学生が権限・責任を分担することとした。実際には、社長以下副社長（交流部門）、副社長（喫茶部門）、広報部長、人事部長、管理部長、経理部長、購買部長、製造部長等の役職を置き、各学生が責任を自覚しながら取り組めるようにした。また、空き店舗活用委員会の作業部会のメンバーは、仮想の経営コンサルタントとして会社の経営指導にあたった。

(2) 店舗面積

32坪（約106㎡）

(3) 営業等

○プレオープン期間（8/26～9/17）	営業時間	午後4時～7時、定休日一土・日・祝
○グランドオープン（9/18）～	営業時間	午後2時30分～9時30分
※11/4～12/26	営業時間	午後12時～6時、午後7時～午後10時 定休日一土・日・祝
○再オープン（1/10～）	平日	午前11時30分～午後3時 午後6時～午後11時
	土・日・祝	正午～午後5時（日曜は午後3時まで） 定休日：月



「思川カフェ」オープンチラシ



学生スタッフ一同

(4) 開催イベント等

日 時	タイトル	内 容 等
9/ 8(月)	ジャズコンサート	セミプロトリオによる演奏会
10/10(金)	秋の味覚セール	炊き込みご飯セット・ブドウゼリーの特別メニューを提供
10/19(日)	西口まつりジャズコンサート	プロ5人によるジャズコンサート
11/ 3(月)	市民公開講座「中東情勢について」	白鷗大学 平山健太郎教授
11/3 (月) ～7 (金)	写真展	白鷗大学幼児教育科学生浅川温美さんの写真展
11/14(金)	D J ナイツ	HIPHOP R&B
11/17(月) ～22(土)	ジャズ啓蒙イベント	・ジャズの歴史と伝説のアーティスト パネル展示 ・ジャズ関連映画の上映会
12/10(水)	ハンドベルコンサート	白鷗大ハンドベルコンサート
12/19(金)	D J ナイツ	HIPHOP R&B
12/21(日)	思川カフェクリスマス JAZZLIVE	プロによるジャズコンサート
2/ 8(日)	手話&うた	白鷗大学生による手話講座
2/15(日)	カフェ塾	白鷗大学生グループによる小中学生への学習指導
2/21(土)	市民公開講座「ネパールのタベ」	白鷗大学結城教授によるネパール文化の公演等
2/22(日)	中国語&中国茶講座	中国人留学生の段さんによる、中国語&中国茶の講座
2/29(日)	カフェ塾	白鷗大学生グループによる小中学生への学習指導



クリスマスジャズライブ



D J ナイツ

【 効 果 】

1. 商店街の明るさの向上

地元商店街へのアンケート調査では、まちなかに学生が集うことにより、商店会員の活性化に対する意識向上の変化とともに、商店街が明るくなったとの意見が多く出ている。

2. 商店街認知度の向上

大学生が店舗運営を行うこと自体が珍しかったため、市民の注目を集め、商店街の認知度が高まった。

3. 来街者の行動

まちなかに若者が集う場所が出来たことにより、商店街の来街者の増加とともに、若者等これまでと違った客層が来街するようになった。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 事業実施のノウハウ

大学生による店舗運営のため、経営ノウハウ等の不足が目立った。

2. 事業の合意形成

本事業の実施については、学生、大学、商店街、会議所、行政等多くの団体に関わって実施したため、各関係者との合意形成は非常に難しいものであった。また、学生は学生自身の考え方・感性で実施したいと意欲があったが、市民の視点・ニーズ等との違いがあった。

3. 店舗経営者への支援

学生は授業があるため店舗運営面で制約があった。また、運営資金の調達にも制約があり、1の経営ノウハウ面も含めて、さらに支援体制の充実を図る必要がある。

【 事 業 の 実 施 ポ イ ン ト 】

当市にとって、街を活性化する手段として大学及び大学生の存在は大変大切な資源であると考えられる。この資源をうまく生かすことが大切だが、学生にすべての権限と責任を持たせるわけにはいかない。

事業の実施にあたっては、学生の潜在能力を最大限に発揮してもらうため、支援者のサポートと役割分担を明確にすべきである。

【 関 連 U R L 】

小山商工会議所 <http://www.oyama-cci.or.jp/>